

わちエだより

題字 吉田蒼月

Vol.48

2020年(令和2年)
10月発行



診療情報

産婦人科 お産のご案内
この街でママ、パパになるあなたを
応援します。

**産婦人科部長
吉村 俊和 医師**

総合健診センター検診案内

乳がん検診Q&A
女性にやさしい乳がん検診

Information

インフルエンザ予防接種のご案内

この街でママ、パパになるあなたを応援します。 ご夫婦にとって満足のいくお産を、八千代病院で。



地域で早くから周産期医療、不妊治療に取り組み実績を挙げてきた八千代病院 産婦人科。
近年は多様化するお産のニーズにお応えするため、体制を一層充実させています。
巻頭では、当院でのお産についてご紹介します。

多様化するニーズに応えるために

近年、家族形態やライフサイクル、価値観などが変化
する中で、女性がお産に求めるものや必要なサポート
は多様化しています。

八千代病院は地域医療を担う病院として、地域の皆
さまが安心して出産し子育てができるよう、お一人
おひとり、ご家庭ごとに異なるニーズにきめ細かく
お応えする体制を整えています。

産婦人科では、常勤医と大学からのサポート医総勢
11名が診療を担当。また25名の助産師が在籍してお
り、産婦人科医と連携しながら妊産婦さんに専門性の
高いケアを提供しています。

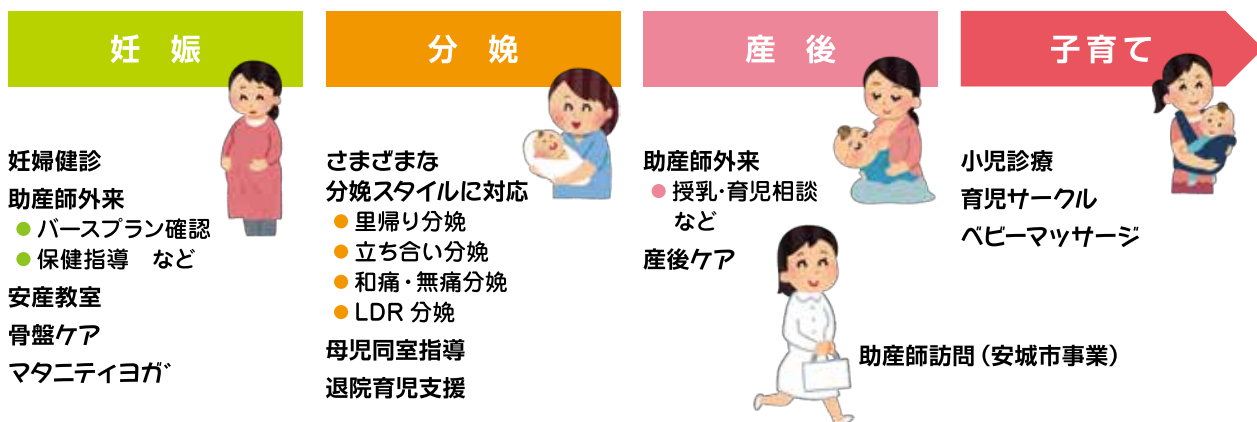
妊娠出産・子育てを取り巻く環境

女性の社会進出／晩婚・高齢出産の増加
少子化／核家族化



【産婦人科の支援体制】

多様な機能とサポートを備え、妊娠中から子育て期まで切れ目なく支えます。



【365日24時間対応】

- 産婦人科当直医および助産師が夜間も常駐。分娩時はもちろんのこと、産前・産後の緊急時に対応します。
- 助産師・看護師による24時間電話相談も行っています。

安全・安心・快適なお産をかなえる、 「たしかなスキル」と「あたたかなケア」

妊産婦さんお一人おひとりのバースプランにもとづき、
産婦人科を中心とするチーム医療で、よりよい出産と育児をお手伝いします。



特色 1 安全なお産へと導く、たしかなスキル

産婦人科では年間約300件の分娩を行っています。
その多くは合併症のないローリスクの方ですが、**妊娠糖尿病**などのリスクがある方、不妊治療を経て妊娠された方、また無痛分娩を希望される方などにも積極的に対応しています。

妊娠出産は常に100%安全とはいえません。正常な経過をたどっていても、思いがけないトラブルが突然生じることもあります。産婦人科医が定期健診により妊婦と胎児の状態を観察しながら、そうしたトラブルに適切に対処し、安全なお産へと導いていきます。



18の診療科と専門医を有し、検査機器や専門職が充実した総合病院だから、“もしものとき”にも迅速に対応できます。

妊娠糖尿病

妊婦の7～9%にみられ、出産の高年齢化などを背景に近年増加傾向にある「妊娠糖尿病」。妊娠すると胎盤などの影響で妊娠前よりも血糖が上がりやすくなり、一定の基準を超えると妊娠糖尿病と診断されます。妊婦が高血糖であると赤ちゃんも高血糖になり、さ

まざまな合併症が起こりうるため適切な管理が必要です。

当院には内分泌代謝内科の専門医をはじめ管理栄養士、薬剤師らが在籍しているため、産婦人科医と連携して妊娠中の血糖管理から産後のケアまでトータルなサポートが可能です。

特色 2 不安を安心へと導く、あたたかなケア

妊娠から出産までの間、女性には精神的にも肉体的にもさまざまな変化がおとずれます。日々大きくなるおなかに期待と喜びが膨らむ一方で、不安や戸惑いを感じることもあるでしょう。

そんなとき頼りになるのが助産師です。助産師は専門知識とスキルを備え、妊娠中の保健指導から出産の介助、育児指導、産後ケアまで女性を継続的に支援するエキスパートです。当院では医師と助産師が協力して妊産婦さんの不安を取り除き、出産・子育てに向けて心と体の準備ができるようサポートしています。



妊産婦さんとスタッフの距離が近くアットホームな雰囲気なのが当院の魅力。不安なことがあればいつでもご相談ください。



特色 3 小児科にスムーズにバトンタッチ。育児期もずっと安心

妊娠中は出産のことを中心に考えがちですが、出産後すぐに始まるのが子育てです。小児科の体制が充実しており、新生児から義務教育までの間（慢性疾患の場合は思春期まで）、お子さんの健康管理を継続してお任せいただけるも当院の強みです。

小児科ではとくに小児アレルギー疾患の専門診療に力を入れており、食物アレルギーをはじめアトピー性皮膚炎、気管支喘息などの検査・治療で多くの実績があります。



健診から専門診療までをカバーする小児科

● 出生時診察 ● 乳児健診

● 予防接種

安城市指定の予防接種実施医療機関。愛知県の広域予防接種にも対応。

● 小児疾患全般の診療

● アレルギー疾患、内分泌疾患などの専門診療



各種ワクチンの接種に関する
ご相談にも
丁寧にお答えしています。

PICK
UP !

やちよのお産 さまざまなスタイルの分娩に対応しています。

妊娠中の経過が順調な方はできるかぎり自然分娩をめざします。ただし、リスクが大きいと判断した場合は予定帝王切開、あるいは緊急帝王切開を選択することがあります。分娩方法は母児の安全を第一に考慮し、ご本人の希望も尊重してご提案します。

なお当院では、妊産婦さんのご希望に応じて和痛・無痛分娩を行っています。

その他、里帰り分娩、立ち合い分娩、LDR分娩などにも対応していますので、希望される方は助産師にご相談ください。

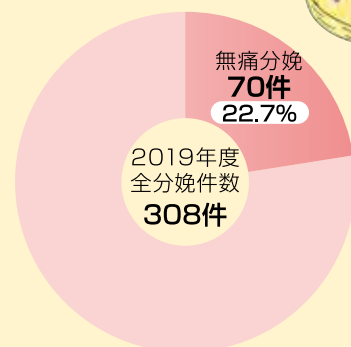


痛みの少ないお産 【和痛・無痛分娩】

和痛・無痛分娩とは、麻酔によって陣痛の痛みを和らげ分娩する方法です。一般的には硬膜外麻酔（カテーテルを背中から脊髄の近くに入れ、麻酔薬を少量ずつ注入する方法）を使用して下半身の痛みだけを軽減します。

無痛分娩の実施にあたっては安全を最優先するため、当院では計画分娩を主体とし、休日・夜間を除いて実施しています。

無痛分娩実績





産婦人科部長 吉村俊和 医師

「次もまたここで生みたい」。

そう思ってもらえるお産をめざして。

1997年に八千代病院に着任して以来、23年にわたりこの地域で命の誕生を見守り続けてきた産婦人科部長・吉村俊和医師。
当院の産科領域の特色ある取り組みや、妊産婦さんへの思いについて話を聞きました。

近年増加傾向にある無痛分娩

冒頭でふれたように近年、晩婚化や出産の高年齢化などを背景に、妊産婦さんやご家族がお産に求めることや必要な支援が多様化しています。

そうした中、医師の立場からニーズの高まりを実感しているものの一つに「無痛分娩」があります。日本産科麻酔科学会の全国調査によると2016年には全分娩

の6.1%(5万人)の方が硬膜外麻酔を用いた無痛分娩で出産したと概算されており、2007年時点の2.6%に比べ増加していることが分かります。

欧米では60%以上の方が無痛分娩を選択しており、日本でもこれから普及していくものと思われます。

妊産婦さんの心身の負担を軽減するために

当院の2019年度の全分娩に占める無痛分娩の割合は23%と、全国的にみて非常に高い実施率となっています。これは地域に無痛分娩に対応する医療施設が少なく、私が着任した当初より無痛分娩に取り組んできたからです。

というのも、私自身がそれまで多くの妊産婦さんと関わる中で、痛みに弱い方、出産への不安が強い方が少なからずいらっしゃいました。中には、一人目の出産経験から二度とお産はしたくないという方も……。また、できるだけ早く仕事に復帰したいので体力の消耗が少ない方法で生みたいという方もいらっしゃいます。

医療の高度化により分娩の安全性は向上しているも

の、女性の心身への負担は依然大きいものがあります。そうした方々の心身の負担を少しでも軽減し、出産を前向きに考えてほしいという思いがあって、希望される方には無痛分娩を行ってきました。

無痛分娩に限らずどんな分娩方法であっても急変する可能性はゼロではありませんし、医療的な介入にはメリット・デメリットがあります。実施にあたっては、事前にその点を妊産婦さんおよびご家族にしっかり説明し、ご判断いただくようにしています。

陣痛の緩和にはさまざまな方法がありますが、その一つとして、当院では「無痛分娩」が選択できるということを是非、知っていただきたいと思います。

新しい命の誕生を、ご家族と共に喜び合いたい

妊娠出産と言いますが、出産への思いや痛みの感じ方は百人百様です。だからこそお一人おひとりの思いに寄り添った支援ができるよう心がけています。

地域医療を預かる病院として、未来を担う新しい命の誕生を見守り、その健やかな成長を支えることは私たちの使命であり、喜びです。また120年の歴史をもつ八千代病院では、親子3世代にわたり当院で出産さ

れたご家族もいて地域との強い絆を感じています。

「次もまたここで生みたい」。そう思っただけのよう、産婦人科医、助産師をはじめスタッフ一同、精一杯お手伝いします。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

分娩のご予約・お問い合わせ

分娩施設を検討中の方のご相談にも応じています。
お気軽にご連絡ください。

八千代病院 産婦人科外来 ☎ 0566-97-8111(代)

受付時間 月曜日～金曜日／8:30～17:00 第2・4・5土曜日／8:30～12:00 (休診日を除く)



自分のために、大切な家族のために 受けていますか？ 乳がん検診

乳がんは初期の段階では自覚症状がほとんどないため、早期発見には定期的な検診が欠かせません。乳がん検診の適切な受診に役立てていただくために、当センターに寄せられる質問の一部をご紹介します。



Q

乳がん検診はどのくらいの頻度で受ければいいの？

A

乳がんにかかりやすくなる**40歳以上の女性は2年に1度、マンモグラフィ検診を受ける**ことが推奨されています。もし検診直後にがんが発生したら、2年も放置しておいて大丈夫？と思われるかもしれませんが、しかし乳がんは増殖が遅く、2年程度ならば初期がんのままであることが多いのです。

ただし、中には増殖の速い乳がんも稀にあります。したがって、セルフチェックを日常的に行い、気になる症状があれば、次の検診を待たずに外科(乳腺専門医)を

受診するようにしましょう。

なお、下記に該当する方は乳がんになりやすいと考えられているため、検診の間隔や方法について、専門医や健診センターにご相談ください。

● 乳がんにかかりやすい条件 ●

- 乳がんの家族歴がある方
- 出産経験のない方、初産が35歳以上の方
- 初潮年齢が11歳以下の方
- 閉経年齢が55歳以上の方

Q

以前受けたマンモグラフィ検査が痛かったので、エコーじゃダメですか？

A

現在、健康な方への対策型検診(市民検診)として、乳がんの死亡率を減少させることが科学的に認められているのはマンモグラフィ検診のみです。エコー検査は症状を有する方の診療においては有用ですが、症状がない方へのエコー単独検診で死亡率が減少するというエビデンスは現在のところ示されていません。したがって対策型検診では、原則的にマンモグラフィをおすすめします。

ただし、**高濃度乳房***の場合は、マンモグラフィでは異常が判別しづらいことがあります。

当センターでは、過去の検診で高濃度乳房を指摘された方、乳がんの家族歴がありリスクが高い方などには、検診精度を高めるためにマンモグラフィとエコーの併用や、隔年でマンモグラフィとエコーを交互に受ける方法をおすすめしています。

※乳腺密度の高い乳房。日本では40歳以上の女性の約4割が該当するといわれています。

マンモグラフィ(乳房X線撮影)検査

視触診やエコーでは発見できない1mm以下の石灰化を鮮明に描出できます。乳房の全体像を捉えるのに長けています。

エコー(超音波)検査

触診では発見しづらい数ミリのしこりを検出できます。



乳がん検診は生理終了直後がおすすめです。

生理前は女性ホルモンの影響で乳腺への血流が増加し、乳腺組織も増殖傾向にあります。マンモグラフィやエコーで異常が発見しにくく、痛みも感じやすいので避けましょう。

乳がん検診を受けるなら、乳房の張りや痛みの少ない生理終了直後がおすすめです。



八千代総合健診センターの“女性にやさしい乳がん検診”

「痛い、恥ずかしい」と、乳がん検診を敬遠していませんか？ 八千代総合健診センターではリラックスして検診を受けていただけるよう、女性に配慮した環境を整えています。

● マンモグラフィ、エコーは女性技師が担当

乳がん検診では、マンモグラフィおよびエコー検査はすべて女性技師が担当。高い技術の証であるマンモグラフィ検診精度中央管理委員会の認定試験に合格した認定技師を配置しています。

● 先進機器で痛みは少なく、画像は高精度に

今年度、最新鋭のデジタルマンモグラフィシステムを導入しました。新システムは従来に比べ、
① 乳房の圧迫が軽減されて痛みが少ない
② 被ばく線量が少なく鮮明な画像が得られる
③ 撮影画像をフィルムレス化しデータ保存することで次回受診時の画像と比較がしやすい
といった特長があります。



新型のマンモグラフィ装置と女性技師

Q

健診センターのコロナ対策、どのように行っていますか？

A

当センターでは厚生労働省や各種検診学会が推奨する予防対策を講じた上で、検診を実施しています。

● 具体的な感染予防対策 ●

<受診2週間前より>

○体温測定と体調観察をしていただきます。

<受診当日>

1. すべての方にマスク着用をお願いしています。
2. 受診者には健診専用エレベーターを利用いただき、一般外来患者と動線を分けています。
3. 検診前の体温測定、体調確認を徹底しています。
4. 受付時間を分散し、検診エリアの滞在人数を制限しています。
5. 肺機能検査は当面中止。その他の検査機器は、マニュアルに基づき消毒を行っています。
6. 1時間に2回、3～5分程度、換気を行っています。



地域もしくは当院において感染状況が急速に悪化した場合は、予告なく検診を休止することがあります。

乳がん検診のお申し込み・お問い合わせ

検診お申し込みの際にスタッフが話をうかがい、お一人おひとりに最適な検査方法やプランをご提案しています。

八千代総合健診センター ☎ 0566-98-3367(直通)

受付時間 月曜日～金曜日／8:30～16:30 第2・4・5土曜日／8:30～12:00 (休診日を除く)

安城市乳がん検診について 当センターは安城市がん検診の実施医療機関に指定されています。

● 安城市発行のクーポン券でご自宅に郵送された方は、乳がん検診を無料で受診いただけます。詳しくは、安城市WEBサイトをご確認ください。

ぜひ、人間ドックもあわせて受診を!



新任医師紹介

NEW FACES

当院に新たに着任した医師をご紹介します。



内科／地域包括ケア部長
松本 幸浩（まつもと ゆきひろ）
2020年7月1日着任

7月に八千代病院の内科に就任しました。地域包括ケア病棟を中心に、内科診療を担当させていただきます。回復期リハビリ病棟勤務や神経内科診療の

経験を生かし、地域医療に貢献できるように努力していきます。よろしくお願いいたします。

【所属学会・資格】

日本内科学会（認定医）
日本リハビリテーション医学会（認定医）
日本医師会（認定産業医）
日本神経学会



循環器内科
島雄 隆一郎（しまお りゅういちろう）
2020年7月1日着任

「人は血管とともに老いる」とアメリカの内科医ウィリアム・オスラー博士が言われています。高齢者の増加による血管病の増加、慢性心不全の増加

に対して、検査、治療、予防をチーム医療で行うことができている八千代病院で循環器内科医として7月1日より働かせていただいております。よろしくお願い申し上げます。

【所属学会・資格】

日本内科学会（総合内科専門医）
日本循環器学会（専門医）

Information

インフルエンザ予防接種のご案内

インフルエンザ予防接種を10月12日より開始しました。

本年度は【事前予約制】となっています。

予防接種を希望される方は、下記の

「予約直通電話」にてお申し込みください。

予 約
受付中

予約直通電話 **0566-33-5555**

受 付 時 間

月～金曜日 9:00～16:00
診療土曜日 9:00～12:00

10月12日(月)より接種開始

接種時間／14:00～16:00 1回接種＝4,400円(税込)

※接種期間中に主治医の診察がある方は、医師の判断により診察当日にワクチンを接種できる場合があります。

詳しくは、総合受付にお尋ねください。

※高校生は保護者の同意書が必要です。

小児インフルエンザワクチンの接種予約は終了しました。



消化器内科
近藤 重明（こんどう しげあき）
2020年10月1日着任

10月より消化器内科で勤務しております。近藤重明と申します。診断・治療・検診等で患者さんの不安や苦痛を少しでも減らせることができればと思い

ますので、何でも相談してください。地元地域の医療に貢献できるよう努めます。よろしくお願いいたします。

【所属学会・資格】

日本内科学会（認定医）

産婦人科「お産のご案内」サイトを新設!

www.yachiyo-hosp.or.jp

八千代病院のトップページから、「お産のご案内 産婦人科」のバナーをクリックしてご覧ください。



病院理念／最善の医療を提供する

基本方針／1) 患者本位の医療
2) 地域中心の医療
3) 安全先進の医療

目 標／私たちは、クオリティホスピタルを目指します。

クオリティホスピタルとは、志の高い病院・質の高い病院・満足度の高い病院です。

モットー／親切 親和 信念

わちよより

2020 Vol.48

発行日／2020年(令和2年)10月26日発行
編 集／八千代病院 新聞・広報委員会
社会医療法人 財団新和会 八千代病院

発行人／八千代病院 院長 小林一郎
制 作／八千代病院 広報係
〒446-8510 安城市住吉町2-2-7

編集長／米山明彦(内科)
TEL:0566-97-8111(代)

2020.10.1000TF